

阪南大学 2022 年度事業計画実施報告 外部評価報告書

評価実施日：2023 年 9 月 4 日

評価項目：学生支援 学生の受け入れ 学園運営

評価実施外部団体：松原市役所

評価者所属：市長公室 企画政策課

氏名：井内 岳郎

2022 年度事業計画実施報告の外部評価を実施した結果、以下の通り報告します。

【総評】

同大学は、2022 年度の事業計画において、新型コロナウイルス感染症拡大による様々な負の影響から回復すべく、「post コロナ」時代に向けた「次世代型実学教育」の実現を目標に、魅力ある大学運営に取り組まれている。

予測困難で変化の激しい現代社会において、社会が学生に求めるスキル、また学生が大学に求める支援も多種多様化していると考えられるが、2023 年度入試にて導入された「資格活用型選抜入試」制度をはじめ、国際交流・海外留学等支援、また早期段階からの就職活動・資格取得支援の充実化を積極的に図っていることから、同大学が社会・学生また保護者の期待に応え、能動的に社会で活躍できる人材の育成に尽力されていることが窺える。

また、修学支援において、学生の意欲低下や離学の防止策にも取り組まれており、同大学が一人一人の学生を大切にし、施策を講じられている点も評価に値する。

今後も、個々の学生のニーズまた保護者や社会の期待に応える制度・設備の充実を図り、魅力ある大学運営に取り組まれない。

【各評価項目】

各評価項目は別紙を参照

以上

2022 年度事業計画実施報告 外部評価票

評価者：松原市役所

評価項目	2022 年度事業計画（外部評価対象項目）
A-1	学生支援活動に向けた取組 (1) 修学に関する支援・充実 (2) 学生生活に関する支援・充実 (3) 就職に関する支援・充実 (4) 卒業生との連携 (5) 保護者との連携
評価点 (5段階： 5が最高 点、1が最 低点)	5 ・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
評価概評	<p>(1) 修学に関する支援・充実については、新入生・留学生また障害をもつ学生等の支援に加えて、学習状況に課題のある学生をフォローする「入学前教育」「リメディアル教育」や、データに基づいた離学者防止策にも取り組まれており、個々の学生の状況に応じた支援が行えるよう、体制・設備の充実化を図っている点が評価できる。一方で、各施策の実績について、目標未達のものが見受けられることから、その原因の分析と対策が今後望まれる。</p> <p>(2) 学生生活に関する支援・充実については、課外活動への支援、学生相談室等における学生の心身のケア、国際交流・海外留学等の推進、また奨学金による経済的支援のいずれにおいても、満足度が目標値に達しており評価できる。</p> <p>(3) 就職に関する支援・充実についても、3年次生以降に対するきめ細やかな就職支援・企業斡旋だけでなく、1・2年次生を対象としたセミナーや資格取得支援が充実している点が評価できる。しかしながら、参加率の低い施策も見受けられるため、実施内容・方法等のブラッシュアップが必要と思われる。</p> <p>(4) 卒業生との連携については、コロナ禍により取組の進捗に課題は残るものの、同窓会との情報交換会は継続実施されている。次年度以降も卒業生との関係を維持し同大学の発展に繋げるとともに、卒業生向けの事業について具体的な目標・取組方法を設定のうえ進捗を図っていただきたい。</p> <p>(5) 保護者との連携については、保護者対象大学体験フェアの満足度が高く、またポータルサイト等で情報提供機会を積極的に設けており評価できる。</p> <p>いずれの施策においても、個々の学生また保護者のニーズにきめ細やかに対応できるよう、制度・設備の充実が図られている。</p> <p>ただし、活用率に課題が残る施策については改善が望まれる。本年度はコロナ禍の影響も見受けられるが、一方で学生支援室等はオンライン形式のほうが気軽に利用できた等の新たな成果も得られており、そのような気づきも糧に、より効果の高い取組が展開されることを今後期待する。</p>

- ・各評価項目の取組みについて、取組みの状況、結果、課題等を客観的に評価してください。
- ・評価項目は5段階評価点と評価の概評を記載願います。

2022 年度事業計画実施報告 外部評価票

評価者：松原市役所

評価項目	2022 年度事業計画（外部評価対象項目）
A-2	学生受入、広報活動の充実に向けた取組 (1) アドミッション・ポリシーに基づく多様な入学試験の実施 (2) 大学広報機能の充実
評価点 (5 段階： 5 が最高 点、1 が最 低点)	5 ・ 4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
評価概評	<p>(1) アドミッション・ポリシーに基づく多様な入学試験の実施については、専願性入試の志願者数が前年比増となり取組効果が一定得られたと考えられる。併願性入試については前年比減となり引き続き改善が必要と思われる。</p> <p>2023 年度入試から実施された「資格活用型選抜入試」については、志願者数増加の効果だけでなく、大学入学前から将来の自身のキャリアについて意識し自己成長を図ることができる主体的・意欲的な学生の獲得にも繋がり、同大学のブランドイメージの更なる向上にも寄与するものと期待される。</p> <p>(2) 大学広報機能の充実については、同大学の魅力を明確化し、またターゲットを絞ったうえで、各種メディアを通じた戦略的なアウトワーブランディングを企画している点や、アウトターに偏らずインナーブランディングにおいても、学生とともに SNS や広報誌での情報発信に取り組み、在学生・保護者・同窓生の帰属意識の醸成を図っている点が評価できる。</p> <p>2024 年度に学部・校舎の新設が予定されていることから、学生受入・広報活動について今後更に活発に施策が展開されるものと推察する。本年度は減少傾向となった併願性入試における志願者数、模試マーク状況、入試情報サイト PV 数等の向上に繋がることを期待する。</p>

- ・各評価項目の取組みについて、取組みの状況、結果、課題等を客観的に評価してください。
- ・評価項目は 5 段階評価点と評価の概評を記載願います。

2022 年度事業計画実施報告 外部評価票

評価者：松原市役所

評価項目	2022 年度事業計画（外部評価対象項目）
A-3	学園運営の充実に向けた取組 (1) 自己点検・評価活動の実質化 (2) 大学運営体制の整備 (3) 社会的要請の達成 (4) 施設・環境の整備
評価点 (5 段階： 5 が最高 点、1 が最 低点)	5 ・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1
評価概評	<p>(1) 自己点検・評価活動の実質化については、本年度、内部質保証推進委員会と自己評価実施委員会の構成員の見直しが為されたことにより、より客観的な自己点検・評価また改善策の検討が可能になったと考える。</p> <p>(2) 大学運営体制の整備については、取組の効果を測るうえで、数値目標を設定できればさらによいと考ええる。</p> <p>(3) 社会的要請の達成については、時間外勤務抑制や外部への積極的な情報公開が為されている点で評価できる。ハラスメント防止、研究倫理教育およびコンプライアンス教育研修については参加率が目標未達となっているため受講の徹底を引き続き図っていただきたい。</p> <p>(4) 施設・環境の整備については、安全面を確保しながら計画通りに工事が進捗しており評価できる。</p> <p>今後も、内部質保証推進委員会が主体となり、客観性をもった学園運営の評価を行っていただくとともに、PDCA サイクルに基づく改善策の実施に取り組み、学生やその他のステークホルダーにとってますます魅力のある学園をつくっていただきたい。</p>

- ・各評価項目の取組みについて、取組みの状況、結果、課題等を客観的に評価してください。
- ・評価項目は5段階評価点と評価の概評を記載願います。